

# 気候変動「御神渡り」に影響」懸念

## 諏訪地域6市町村などの住民

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン（東京都港区）は、諏訪地域6市町村と塩尻市を対象に行った「気候変動に関する意識調査」の結果を発表した。回団体によると、諏訪湖の「御神渡り（御渡り）」に関心を持ち、出現を望むの方が温暖化対策を実行している割合が高かったという。20日に八剣神社（諏訪市小和田）で開いた報告会で、プロジェクト・マネージャーの高田久代さん（44）は「温暖化は人為的な影響。御神渡りが起きない『明けの海』を『仕方がない』で終わらせず、自分にできる行動を考えていくことが大切」と呼び掛けた。（松本佳林）

回団体は1月、御神渡りを題材にした短編映画「御渡り」を制作。作品が2月2日に開かれた映画祭で、

# 出現望む人の方が温暖化対策を実行

## 国際環境NGOグリーンピース・ジャパンが意識調査の結果発表

ドキュメンタリー部門の最高賞を受賞したことを機に、諏訪地域の人たちの御神渡りや身近な気候変動への考え方、望んでいる政策などを調べる目的で今回の調査を企画した。

調査は自然論調査協会に委託し、郵送方式で実施。6月下旬から1カ月間、7市町村に在住する18歳以上の男女1500人を対象に行い、うち456人から回答を得た。

問いは属性調査を含めて計10項目。「御神渡りが6季連続で出現していないことを知っているか」との質問に関しては「知っている」と答えた人が約88%と多かった。「寒い日が減り、諏訪湖が結氷しない・しにくくなること」「明けの海」の要因と考えられることについては「仕方がない」が約64%、「何とかできたら」が約26%。「何とかできたら」と答えた人では「具体的な取り組みをして



意識調査の結果について解説する（左から）平島理事、宮坂宮司、高田マネージャー

いる人が約33%と、ほかの回答を選んだ人より高い割合になった。

また、温暖化に対して「具体的な取り組みをしている」人は「明けの海が続いていることを知っている」と回答した人では約24%だったのに対し、「知らない」と回答した人では約17%にとどまった。このほか進めたい気候変動の対策について、緩和政策では「再生可能エネルギーの普及」（約80%）適応政策では「風水害への備え・被災者救済」（約76%）がそれぞれ最多だった。

報告会に同席した自然エネルギー信州ネットの平島安人理事（67）は「私たちの行動が自然を変えてしまった」と指摘。同映画にも出演した八剣神社の宮坂清高司（73）は「一人ひとりが身近なところで何ができるか考え、行動する必要がある。御神渡りや今回の調査が気候変動を考えきっかけになれば」と期待した。

回団体では、年内に映画「御渡り」の